

市民 登場

No.774

音楽を通じて平和を伝える
文化コーディネーター

彦前 清吾さん

◆ひこまえ せいご 和歌山県出身。音楽文化事業を通じた平和啓発活動などを行う(一社)国際芸術文化アカデミーの代表理事を務め、総合文化芸術センターで平和コンサートや平和講演会などを主催。音楽をシニア世代に伝える生涯青春カレッジの主宰者としても活動中。藤阪北町在住。80歳。



人に委ねず一人一人が自分の心に『平和のとりで』を築くことが大切です

戦後80年を迎えた昨年、ノーベル平和賞を受賞した日本被団協の事務局長・濱住治郎さんを招いた平和講演会を市総合文化芸術センターで開催した。核兵器のない未来を訴え、平和のシンボルにと祈念した桜も市に寄付し同センターに植樹した。

の金属探知機を目の当たりにし、常に危険と隣り合わせであることを衝撃を受けた。近年、ロシアのウクライナ侵攻にも心を痛めていた中「母親を残している母国に帰れない」と話すウクライナ出身のピアニストと出会った。「戦争は人ごとではない。何とか力に」と自身が企画するコンサートに出演を打診。過去6回開催分の収益・募金を寄付したウクライナ大使館からは人道支援に役立てるという手紙も受け取った。「戦争は人の心から生まれる。人に委ねず一人一人が自分の心に『平和のとりで』を築くことが大切です」

大学卒業後に就職した一般財団法人で音楽文化事業に携わり「コンサートの来場者が笑顔で帰っていく姿に、音楽は人の心に安らぎを与える力があると気付きました」。エリア責任者時代、知人を通じて出会った留学生から、日本に友達がおらず楽しい思い出がないと聞いたことで音楽を通じた交流事業「留学生音楽祭」を企画。これまでの30年間で112もの国・地域の人たちをつないできた。「イベント後に友達ができた笑顔で報告してくれてね。音楽は言語を超えて人をつないでくれる。音楽こそ平和の源泉というのが私の信念です」

かつてエジプトを訪れた際、街の至るところにあるテロ対策の金属探知機を目の当たりにし、常に危険と隣り合わせであることを衝撃を受けた。近年、ロシアのウクライナ侵攻にも心を痛めていた中「母親を残している母国に帰れない」と話すウクライナ出身のピアニストと出会った。「戦争は人ごとではない。何とか力に」と自身が企画するコンサートに出演を打診。過去6回開催分の収益・募金を寄付したウクライナ大使館からは人道支援に役立てるという手紙も受け取った。「戦争は人の心から生まれる。人に委ねず一人一人が自分の心に『平和のとりで』を築くことが大切です」

かつてエジプトを訪れた際、街の至るところにあるテロ対策

の金属探知機を目の当たりにし、常に危険と隣り合わせであることを衝撃を受けた。近年、ロシアのウクライナ侵攻にも心を痛めていた中「母親を残している母国に帰れない」と話すウクライナ出身のピアニストと出会った。「戦争は人ごとではない。何とか力に」と自身が企画するコンサートに出演を打診。過去6回開催分の収益・募金を寄付したウクライナ大使館からは人道支援に役立てるという手紙も受け取った。「戦争は人の心から生まれる。人に委ねず一人一人が自分の心に『平和のとりで』を築くことが大切です」

自慢の写真・イラストが表紙に!?

枚方の風景などをテーマにした写真・イラストを大募集。▶応募 メールまたは市ホームページの専用フォームに住所・氏名(ペンネーム希望の場合はペンネームも)・年齢・電話番号・メールアドレス、作品の題名・説明を書いて作品データを添付し広報プロモーション課(☎kouhou@city.hirakata.osaka.jp)へ。詳細は市ホームページ参照。

※応募作品は市公式フェイスブックやインスタグラムで公開します。



専用フォーム
はこちら

「季節に架かるしだれ梅」

今月号の表紙写真は朝日丘在住の高宮順さん(56歳)が令和7年3月に山田池公園で撮影。「しだれ梅が満開を迎え、春の訪れを感じる空気感と雲の表情に引かれました。美月橋をアクセントに構図を工夫し、季節の移ろいを表現しました。」



※写真の景観は現在と異なる場合があります。